

# うた ひつじの詩だより

2008. 5. 1  
毎月発行 No.86  
この頃はご注文の品と  
いっしょにお届けします

今年は5月1日が八十八夜。立春から数えて88日目です。そして、もう数日すると、立夏。カエルがなき始め、ミミズが地上に出てくる頃です。もう、寒さの戻りを心配しなくてもいい季節になりますね！

## 赤ちゃんサーラ

ウォドルフ人形を日本の子ども達に手渡したいなとスウェーデンで友人に語った夢が現実となって、思いがけず、それが私の仕事になりました。夢を持った時点で、少しは持っている感性の中に、子どもがキーワードとなるべきものがあつたに違いないのですが、生まれてから自我の目覚める年齢までの子どもにとって、例えば、人形という存在ひとつをとっても、その関わりを大切に受け止めることがどれほど重要なことか、実は、仕事をするようになって本当の所に気がついたと思います。それでも、もちろん気がつかないことが多く、人形の意味というよりも、どのくらいの人形の大きさが、ある年齢の子ども達にとって適当であるかという

ような現実的な知識を、幼児教育に携わる方々から、多く学びました。今回の赤ちゃんサーラもウォドルフ人形の延長線上の作り方ではありませんが、そういう方々の要請を受けてデザインしました。今回のサーラの作り方がベストとは思いませんが、こんな人形の赤ちゃんがいてもいいかなーと思ってくださると嬉しいです。

もうひとつ、これは夢のない話で申し訳ないのですが、赤ちゃんサーラが生まれたきっかけには文化出版局の方の意向も無視できません。初版より、20年以上たつ「ウォドルフ人形の本」もいつまで存続できるか危ぶまれます。「ウォドルフ人形の形をどこかに生かしておきましょう」というようなお達し。時は経ち、現実は厳しいのです。が、しかし。本がなくなったとしても、時が経ったとしても、子どもとその心を大切に思う大人がいる限り、人形の世界で失うものはありませんよね。大丈夫！

スウェーデンひつじの詩舎主宰 佐々木奈々子

先だって、ウーフ（香川県丸亀市）でのワークショップに参加したばたぼんからは、次のような感想が寄せられました。

〈重さを量ったりやわらか具合に気をつけたりして丁寧に作り上げていく過程はとても新鮮でした。ウォドルフ人形はしっかり丈夫な子にと思いながら作りますが、サーラは繊細な赤ちゃんを抱くような気分で作りました。仕上がるころにはいとおしく、よく、こんな可愛い人形を考えてくださいました！と感謝の気持ちでいっぱいでした。 加藤ますみ〉

〈本に書いてあるとおりの重さ・サイズの各部分を作れば、おもしろいようにピタッ、ピタッとチューブガーゼやジャージーに収まっていきます。完成間近になって、なんだか手足が長くなったかな…と思って、本の指示に沿ってひじ、手首、膝、足首と縫っていけば、子供が幼かった頃とおなじポーズのかわいい、かわいい赤ちゃんができあがり、うれしくなりました。ベビーベッドの中の赤ちゃんをのぞき込むように「サーラちゃん」と呼びかけています。 原田保子〉

できあがった赤ちゃんサーラにオーガニックコットンファアの服を着せると、柔らかくやさしい抱き心地です。小さな子たちもその感触をととても喜びますし、お兄ちゃんお姉ちゃんにとっては、そっとお世話してあげたい人形として大切にされることでしょう。

（赤ちゃんサーラのキット 4,500円：身長34cm、ジャージ縫製済み / 赤ちゃんサーラの服のキット 2,500円：オーガニックコットンファア、スタイ付）



## ウォドルフ人形展 ～心を育む人形たち～のお知らせ

5月8日(木)～12日(月) ギャラリー 木もれび いわき市好間町榊小屋字中平 65-9

TEL: 0294-39-5404 担当: 四郎丸一枝・根本裕美

☆ 通信講座「ベレの学校」第4期卒業展を同時に開催いたします。

6月14日(土)～22日(日) ハンズオン・イー キンダーリープ

小樽市住吉町4-4 TEL: 0134-24-1031 担当: 村本泰江

## ばたぼん通信

## お話を語ること

私は『お話を語ること』を少しずつ始めたところです。私は普段、小さな図書館で事務・経理の仕事をしているので、何もそんな苦勞(?)はしなくてよいのですが・・・なぜ、始めてしまったか、というと・・・

子どもに本の楽しさを知ってもらうには、やはり大人の手助けが必要と思いますが、私自身子どもの頃、近所の方が居間を開放して開いていた家庭文庫へ、週に一度楽しみに通っていました。そこで本を読んでもらったり、『お話』を聞くのが大好きでした。そして、夜寝る前に母がしてくれる創作の話(即興ですが・・・)も好きで空想の世界で遊ぶのが楽しかった子ども時代でした。自分の子どもたちが生まれてからも一緒に本を読んで楽しみましたが、その後、幼稚園に勤めて手作りの紙芝居を読んでいた時に、子どもたちと同じ世界に入り込んでいく何だかわくわくした感動と余韻を味わってから、私の中に！が湧いてきました。今、勤めている私立の東京子ども図書館では、大人のためのお話会も開かれており、私はここ10年ずっと、聞いてただただ楽しんでできました。お話を覚えようと自然に思えたのも、お話の楽しさを十分に味わってきたからでしょうか。実際は覚えるにはかなりの努力と苦勞もありますし、職場は、職員の半数が語り手・・・でもなんととっても、よく聞いてくれる子どもたちと、語った時の手ごたえに励まされながら、これから『お話』を楽しんでいきたいと思っています。



東京子ども図書館のお話の部屋

内田直子(東京都中野区在住)

## スウェーデンひつじの詩舎からのお知らせ

- ★ 通信講座「ベレの学校」では、各地のリーダーさんを中心にさまざまな交流会が企画されているところです。第5期について、たくさんのお問い合わせをいただいておりますが、詳細につきましては決まり次第、ひつじの詩だより紙面上やブログでお知らせしますので、今しばらくお待ちください。
- ★ 5月22日と29日の木曜日、午後1時から3時、朝日カルチャーセンター立川では**はじめてのガーゼ人形作り**のワークショップを行います。詳しくは朝日カルチャーセンター TEL: 042-527-6511 へ直接お問い合わせください。
- ★ 佐々木奈々子の作品展が、11月5日(水)から11日(火)まで、横浜高島屋にて開催されます！どうぞお楽しみに！

編集担当: 佐藤治子  
スウェーデンひつじの詩舎のホームページ  
<http://www.s-hitsuji.co.jp/>

♥ スウェーデンひつじの詩舎 ♥  
スペース ベレのあたらしいふく  
〒244-0001 横浜市戸塚区郷が丘 15-2  
TEL/FAX 045-881-6000,6005  
佐々木のアート工房 TEL/FAX 045-811-6708  
相談窓口・金 担当: 寺田裕子 045-881-7035